

老鶯の語尾のきらきら細波す

山田真砂年〔稲〕

〔稲 二〇二二年 七月号より〕

中七の「きらきら」は、最後まで明瞭な節回しで囀り切った美しさの表現であるとともに、間近の湖面に光り輝く細波の美しさをも同時に表現した措辞である。小鳥の生態をよくご存じの方である。春先の鶯は、小声で、ケキヨケキヨと鳴き始める。それが、日が経つにつれ、声もすっかり出るようになり、やがて日にちを重ねると高い声で、かつしつかりした節回しで、最後までよどみなく囀り切るようになる。それが老鶯である。